様式 4

平成 2 3 年度 第 2 回 学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校
 学校長 松本 剛一

評 価 日	平成 2 4 年 2 月 2 9 日 (水)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 【資料】・平成 2 3 年度学校自己評価表 ※各学部評価 ※各分掌評価 ・保護者アンケート(回収率 9 4 %) ・学校公開、交流活動アンケート ・H 2 3 年度施設・設備整備状況 等</p> <p>●一人一人に視点を当てた学習指導の充実 ○各学部達成状況「B」</p> <p>○各分掌達成状況「A」～「B」</p> <p>●18歳の自立を見据えた進路指導の充実 ○各学部達成状況「B」</p> <p>○分掌(進路指導部)達成状況 「B」</p> <p>●ニーズに対応できる専門性の向上 ○各学部達成状況「A」～「C」</p> <p>○分掌(自立活動)達成状況 「B」</p> <p>●センター的機能の推進 ○分掌(支援部)達成状況 「B」</p> <p>●社会に繋ぐ活動の推進 ○分掌(交流活動・学習情報部) 「B」</p>	<p>〈各学部〉 →各学部とも授業改善への意識が高まり、授業研究や研修の充実などにより学習指導が充実してきている。</p> <p>〈各分掌〉 →関係分掌を中心に研修の充実や具体的な情報提供に努めた。また本校の研究 課題への取組みについて、3 年次の成果を県内外に公開した。授業者支援会議システム、授業シートの活用など授業改善への具体的な取組みが進んだ。</p> <p>〈各学部〉 →個別の教育支援計画と個別の指導計画・進路指導計画との関連性や整合性を日々の学習の中で意識しながら実践してきた。進路指導のあり方の検討やサポートブック作成と活用など具体的に取組んだ。</p> <p>〈分掌〉 →P T A 進路指導部との連携による進路座談会や本校の「進路指導の手引」を作成するなど幼児・児童・生徒、保護者のニーズを受け止めて進路指導を進めた。</p> <p>〈各学部〉 →各種発達検査や自立活動チェックリストにより一人一人の実態把握に努めた。今後は個別の指導計画等の目標設定や学習内容の精選に活用したい。</p> <p>〈分掌〉 →発達に応じた教材・教具、支援機器の活用に関する研修は実施した。今後は各種教材・教具、支援機器の集約や整理を進める。</p> <p>→概ねニーズに対応した支援ができつつある。また、センター的機能関連図を校内教職員に周知した。今後も関係機関等との連携による情報収集・発信に努める。</p> <p>→交流及び共同学習については、双方(本校と相手校)の教育課程上の位置づけやねら</p>	

<p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価(保護者アンケート)の集計結果については、保護者に配布済み。 ・学校の自己評価最終評価については、ホームページで公開(3月下旬) <p>2 学校運営への提言</p> <p>☆自己評価に係る説明が年度当初に比べ具体的でわかりやすかった。教職員個々のやる気や学校としての自信を感じる。</p> <p>☆学校の自己評価には年度の重点課題に向けた取組み状況がみえることから、H25年度の創立50周年記念誌などにも載せてはどうか。</p> <p>☆懇談は担任と保護者で実施しているが、担任以外に指導に関わっている教員にも話をききたい保護者の声がある。</p> <p>☆障害者自立支援法及び児童福祉法の一部改正に伴い、障がい児支援は個別支援計画に基づくことから、学校との連携はますます必要である。学校は教育支援計画や指導計画など保護者への十分な説明が必要あるし、保護者は子どものことをきちんと伝えられる親でありたい。</p> <p>☆学校のホームページの保護者の閲覧状況は半数強ということであるが、見る時間が設定できない保護者もあると思われる。</p> <p>☆学校は子どもたちや教育活動に関する情報共有をどのようにしているのか。</p> <p>☆教職員のコンプライアンスについての意識向上を望む。</p> <p>☆学校の努力がどれだけ保護者に伝わっているかと考えると疑問を感じることもある。保護者に寄り添い、保護者の思いを受け止める姿勢が大切である。意見ポストや意見をきく強化月間などの設定も有効か。</p>	<p>いを明確にして取組んだ。また事前・事後指導の徹底により 相手校の意識やかわりが改善してきた。</p> <p>学校ホームページについては、課業日はほぼ毎日複数の記事の更新ができた。今後個人情報の保護や正確な情報等に留意し、情報発信をしていく。</p> <p>→記念誌については個人情報の保護や予算関係の制限から掲載内容やページ数について実行委員会ではほぼ確認済みである。自己評価については本校のホームページで公表していく予定。</p> <p>→懇談については担任が主体で実施しているが、希望があれば指導に関わる教員からの話も可能であり、個別に要望していただきたい。学部主事に気軽に相談をしてほしい。</p> <p>→高等部では保護者の方や関係機関に協力いただきながら、卒後も使える個別のサポートブックを作成した。本人のことを周囲に分かってもらうツールとして活用してほしい。</p> <p>→送迎時の会話、連絡帳、通信、電話などいろいろな手段を活用して、情報は同時に伝わる努力をしていく。</p> <p>→基本的には学部内の事は学部対応としているが、内容によっては朝礼・終礼を活用したり、職員会議等で周知する。またこあっと(校内グループウェア)を活用している。ただしパソコンは非常勤職員には貸与されていないため、学部内で伝達するようにしている。</p> <p>→コンプライアンスについて周知する。</p> <p>→保護者との話し合いの場としてPTA活動の中に「しゃべり大会」など位置付けているが懇談のあり方も含めて検討していく。</p>
--	---